

未来へ引き継ごう

砂坂海岸林

<昭和32年>



<平成10年>



人々の生活にうるおいとやすらぎを

2004年 北海道森林管理局
檜山森林管理署

檜山郡厚沢部町緑町162-28 TEL 01396-4-3201

三角防風柵

- ・海岸林を潮害から保護し防風帯の拡大を目指して最前線に設置
～これまでに約2,500基の三角防風柵を設置～



三角防風柵の周辺には代表的な砂草植物のハマナスが群生



砂地の安定のため、前砂丘の安定を目的に植栽した砂草植物



シロヨモギ



ハマボウフウ



ハマヒルガオ

荒廃砂地に緑を

明治初期、それまでカシワ・ナラ・イタヤカエデなど広葉樹で覆われていた海岸林は、ニシンやイワシの加工用燃料として伐採され、北西の季節風（タバ風）により急激に荒廃し荒廃砂地となった。



昭和9年、砂丘26haを国有林に編入。

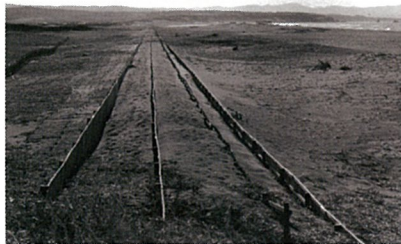
【基礎工】 砂丘の安定のため、渚から砂の供給を断ち切るための砂丘の造成と移動を止める覆砂工主体の基礎工事

静砂工



(稲わらを筋状に埋設)

堆砂垣工



(海岸線に並行に設置)

覆砂工



(通風性の良いよしずを使用)

砂草植栽



(前砂丘に植栽したハマニンニク)

【砂草植物】

ケカモノハシ、ハマボウフ、ハマニガナ、ハマエンドウ、ハマダイコン、ハマカンゾウ、シロヨモギ、コウボウムギ、タマガツリ、キケマン等。

砂地造林



(アキグミ前植地にクロマツ補植)

【前生樹】 33樹種ある中から砂坂海岸林では8種類を採用（春植・深植）

アキグミ・イタチハギ・ギンドロ・ポプラ・ヒメヤシャブシ・ニセアカシヤ
カシワ・クロマツ

再生した緑



(柳崎八幡神社境内)

荒廃前のナラ・カシワ等の当時の林層が残っていると
言われる八幡神社境内。



(防風垣と衝立工)

基礎工により砂地が安定、いよいよ本格的な緑化に着手(昭和22年)。
冬期の風雪、夏期の高湿・乾燥等による失敗の経験を踏まえ、防風垣
と立てわらによる衝立工で植栽木の保護を徹底、確実にクロマツは生育。



(良好に生育:追肥試験地)



(最前線での海浜植物の育成)



(中央部:アキグミ・イタチハギ等)



(最後部:クロマツ)

海岸周辺部に残された砂地部分(23ha)の緑化対策と成林したクロマツ林の潮害からの保護のため、
平成3年から従来からの堆砂垣工より防風・堆雪効果が高く耐久性もある「三角防風柵」を導入して
きている。

成林したクロマツ一斉林



本数調整伐。

抜き切りを行いク
ロマツ林の健全性の
維持と広葉樹の侵入
を図り、安定した生
態系の混交林への誘
導を図る。

針広混交林への誘導



水堀森林愛護組合の皆さんとも連携

(S28 木霊謝恩塔建立)

(海岸林の整備の他、巡視はほぼ毎週実施。)



未来に向けて

【汀線から砂地帯】



季節風の吹き荒れる日本海と砂地。

【砂草地帯】



ハマボウフ・ハマニガナ等の海浜植物が繁茂。

【砂草地帯】



ハナニンク・ハマエソドウ・コウボウムギ・シロヨモギ等の海浜植物群。

【前生林帯】



ハマナス等の自生植物とクロマツの前植木のイタチハギ等の低木群。

海岸林の多様な利用

遊々の森

海岸林を利用して平成15年度に地元の江差町立水堀小学校と「遊々の森」の協定を締結し、「総合的な学習時間」の中で子供たちに自然を大切にする心を育ててもらおうと自然観察会や海岸林清掃、野鳥や小動物の住める環境づくりなどの教育体験活動を積極的に行っています。



海岸清掃



教育体験活動—野鳥の巣箱かけ



「遊々の森」を利用した森林教室



自然観察会

砂坂海岸林の保護対象

江差町

	集落名	戸数	人口	水田 (ha)	畑地 (ha)
昭和10年当時	柳崎	78	400	不明	不明
	水堀	63	355		
	越前	34	231		
	中綱	24	167		
	小黒部	35	222		
	計	234	1,375		
昭和60年当時	柳崎	94	308	48	47
	水堀	331	802	136	39
	越前	45	203	143	30
	中綱	28	118	97	12
	小黒部	85	322	143	29
	計	583	1,753	567	157
平成13年4月	柳崎	139	329	58	17
	水堀	215	568	126	14
	越前	47	148	130	10
	中綱	27	102	100	5
	小黒部	81	231	124	32
	計	509	1,378	538	78

位置

北海道で最初の海岸林造成箇所「砂坂海岸林」は、渡島半島南西部（檜山郡江差町字水堀）の、乙部町の南5km、厚沢部町の東6km、江差町の北8kmに位置し、この3町のほぼ扇の要に当たる厚沢部川河口に接し、国道229号線を画して、後方の集落及び穀倉地帯に連なっています。

この海岸林は、日本海の海岸線に沿って、長さ約1.5km、幅約0.5km前後の帯状をなし、総面積は88haで厚沢部平野臨海部のおよそ前線にわたっております。

沿革

- ・明治初期 乱伐に端を発し、激しい北西の季節風によって**荒廃砂地**となった。
この飛砂により、水堀地区の田畑の一部は不毛となるなど危険な状態にさらされ、柳崎集落一帯はもっとも被害が多く、**集落の一部は移転**を余儀なくされる。
- ・昭和9年 満州事変を契機に食糧増産が叫ばれるようになり、**砂丘26haを国有林に編入し、飛砂防備保安林に指定**。
- ・昭和10年 砂丘の基礎的な調査と試験植栽を実施。
- ・昭和12年 クロマツ・イタヤカエデなど1.05haを植栽。しかし、**造林木は全て枯死**し造成は困難を極めた。
- ・昭和13年 中川久美雄造林主任（後の函館・青森営林局長）により、**海岸林造成事業を立案計画**。道庁・林業試験場等の協力を得て天然砂丘の分布、波状丘の実態、海岸植物の分布、土壌調査の実施、さらには33種に及ぶ樹種の植栽試験を実施。
- ・昭和15年 **本格的な造成事業**が始まる。（昭和20年までに20haを造成。）
- ・昭和22年 それまで内務省所管であった北海道の国有林は、**林政統一で農林省所管となり、同時に函館営林局が創設**されてからは予算も伸び基礎工事をはじめ植栽・保育・病虫害の防除・防火施設・林内歩道なども積極的に進められ、昭和28年以降は除伐を行うまでに至った。
- ・昭和35年 **檜山道立自然公園に指定**。
- ・昭和38年 **造成事業主体の新植目標面積の70haを造成**。
- ・平成3年～ 海岸側の枯死が目立つことからクロマツの保護と防風帯の拡大を目指しての最前線での施行と共に病虫害に弱いクロマツ一斉林を針広混交林に導く本数調整伐に着手。

